

水稻栽培期間中における気象条件が水稻の生育・収量に及ぼす影響，熊本県阿蘇郡白水村在「おあしす米生産組合」における 2003 年度と 2004 年度との比較

片野 學\*・西八條創造・池田隆幸（九州東海大農）

近年の異常気象は水稻栽培期間中にも顕著に現れている。熊本県阿蘇郡の場合，2003 年度は多雨寡照年であり，2004 年度は好天に恵まれたが登熟後期に台風来襲と多雨によるかつてない刈り遅れ・倒伏・穂発芽が見られた。1989 年に設立され，有機無農薬あるいは除草剤施用のみの微農薬による産直稲作に取り組む 20 農家からなる「おあしす米生産組合」の 35 水田における水稻品種コシヒカリの収量と収量構成要素を調査した。2003 年度に対して，2004 年度は移植日で 2 日遅れ，収穫日で 9 日遅れであったが，収量は 121%と 1%レベルで有意に高くなった。増収要因は 1 株穂数の有意な増大であった。また，精玄米中の蛋白質含量には有意差が見られず，収量と食味との間に関連性は見出されなかった。